

令和3年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）
分担研究報告書

慢性疼痛診療システムの均てん化と
痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究

研究分担者 北原 雅樹 横浜市立大学市民総合医療センター 診療教授／診療部長

研究要旨

学際的痛みセンターは慢性痛の包括的治療をするために不可欠で、その役割は診療だけでなく、慢性の痛みに対する一般及び医療職への知識の普及啓発、慢性の痛みの診療知識の医療者教育、そしてそれらを有機的に働かせるための診療体制の構築などの多岐にわたる。横浜市立大学附属市民総合医療センターペインクリニック内科では、新型コロナウイルスでの影響下で face to face の講習会などが難しい中、普及啓発として YouTube でのオンライン医療者講習会のシステムを構築し、「慢性の痛み講座 北原先生の痛み塾」のチャンネルを 2020 年度に公開した。2021 年度は「慢性の痛み講座 北原先生の痛み塾」のチャンネルを継続し、その結果、チャンネル登録者数 4,000 人、のべ視聴回数 20 万回を超えた。また、歯科医科連携の嚆矢として東京医科歯科大学歯科心身医療科 豊福明先生を。患者のセルフマネジメントについて 2 回にわたり、日本セルフマネジメント協会理事長 岡谷恵子先生/八千代病院精神科医師 森田療法認定医 平林万紀彦先生と曹洞宗恐山菩提寺院代 南直哉師をお招きして討論会をお開催した。

A. 研究目的

慢性痛は生活習慣と密接に関係しているため、地域の医療者、行政、一般市民に対する教育・啓発・広報活動は極めて重要である。

一方、当科では、厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）のほかに、厚生労働省モデル事業「厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業」および当科独自の教育・広報・啓発活動を行っており、それらを分離して論じることが不可能である。総合的な内容は別紙（厚生労働省 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 関東甲信越地区 2021 年度事業報告書）を見ていただきたい。本報告書では、その中から 2021 年 11 月 21 日に主催した歯科医科連携の公演・討論会をとりあげる。

B. 研究方法

当講演会は 2021 年 11 月 21 日の 10:00 から 12:00 までで行われた。対象は医療者であり講師には国立大学法人 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授の豊福明先生を招聘した。事前の申し込みは 161 名であり、当日は少なくとも 112 名が参加した。講演会は予定通りの時間で行われた。

C. 研究結果

講演会の申し込みは 161 名であった。詳細は(表 1)のとおりである。男性の参加者が多く、女性の平均年齢が低い傾向があった。最大値は 99 歳で、次いで 77 歳の人物が高齢であった。年齢の最小値は 23 歳であった。

表 1 参加申込者の人数と年齢

項目	人数	平均年齢	年齢SD
全体	161	50.42	11.09
男性	110	51.38	11.73
女性	49	48.37	9.40
性別無回答	2	48.00	0.00

参加申し込みのあった職種では、歯科医師が最も多く、全体の約 39%を占めていた。次いで医師が多く約 21%であった (表 2)。

表 2 参加申込者の職種

職種	人数	割合
歯科医師	62	39%
医師	34	21%
理学療法士	16	10%
鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師等	12	7%
薬剤師	7	4%
看護師	6	4%
心理士(師)	3	2%
柔道整復師	3	2%
教員	2	1%
作業療法士	2	1%
その他	14	9%

講演会は Zoom で行われた。当日は、予定通り 10 時に開始され 12 時を数分過ぎて終了した。記録に残っている限りでは、112 名の参加があった。

講演会終了後に参加申込者にアンケートに回答してもらった。アンケートは、当日参加できた人用のものとできなかった人用のもの 2 種類が用意された。参加できた人用のアンケートには 48 件の回答があり (表 3)、参加できなかった人用のアンケートには 9 件の回答があった。

参加できなかった人用のアンケートでは、平均年齢は約 50 歳であり、男性 5 名、女性 2 名、性別無回答 2 名であった。参加できなかった理由として最も多かったのは「当日別の予定が入ってしまった」で 8 件であった。その他失念していた人物もいた。

講演会の内容が難しかったか易しかったかを尋ねた。その結果、易しくも難しくもないという回答が最も多く、難しい内容だったという回答はなかった (表 4)。講演会の運営に

ついての評価もおおむね好意的な内容であった (表 5)。

表 3 参加者の人数と年齢

項目	人数	平均年齢	年齢SD
全体	48	52.35	9.52
男性	36	53.03	10.40
女性	12	50.33	5.73
性別無回答	0		

表 4 講演会の難易度

講演内容の難しさ	人数	割合
難しい内容だった	0	0%
易しくも難しくもなかった	34	71%
易しい内容だった	14	29%

表 5 講演会の運営についての評価

項目	負荷量	平均	SD
$\alpha = .95$			
この講演会に参加してよかったと思う	.94	4.56	.73
講演は総合的に満足のいく内容だった	.93	4.50	.74
スライドの内容はわかりやすかった	.93	4.52	.65
講演は役に立つと感じた	.89	4.52	.76
講演を知人にも勧めたいと感じる	.89	4.48	.74
話し方は聞き取りやすかった	.80	4.46	.68
講演会の内容を理解できた	.67	4.42	.61
全体		4.49	.62

D. 考察

事前申込人数 161 名に対して、当日参加者が 112 名であり、約 70%の参加率であった。これは今まで当科で開催してきた、一般的な様々なオンライン講演・討論会の参加率とほぼ同じである。オンラインの場合、参加者数が当日かなり増減しても、滞りなく対応できる、という利点がある。

内容に関して「難しい」と回答した参加者がいなかったのは、対象を医療者に絞っていたことが要因と思われる。一般市民を対象とした場合には、内容の設定により困難が生じると考えられる。

講演会の運営についての評価では、全体平均で 4.49 という極めて高い評価をいただいた。

これは、もちろん講演者の話題や話し方がよかったことが主因であろうが、また当科でのオンライン開催のノウハウが蓄積されてきたことも重要であろう。

E. 結論

オンラインでの慢性痛についての教育・啓発・広報活動は極めて有効性が高く、コストパフォーマンスが良好と思われる。

今後は、オンラインを主軸として、必要に応じて対面式の講演・討論・研修会を併用していくことで、より高い効果を得られると考えられる。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G. 研究発表

1.論文発表

- 1) 平林 万紀彦 【複合性局所疼痛症候群とリハビリテーション】精神科病院における取り組み. 総合リハビリテーション 49: 965-971 ;2021.
- 2) 望月 英樹, 島津 尚子, 他. 自己末梢血幹細胞移植と理学療法によって復職に至った POEMS 症候群の 1 症例 理学療法ジャーナル 55: 348-352; 2021.
- 3) 柴田政彦, 福井聖, 北原雅樹. 慢性疼痛治療の歴史と現状 ペインクリニック 42: S227-232; 2021.

2.学会発表

- 1) 浅枝 まり子, 星野 諒太, 北原 雅樹. YouTube 上での慢性痛普及啓発の効果の検討 第 14 回日本運動器疼痛学会 2021 年 11 月. 名古屋
- 2) 北原雅樹. 高齢者の慢性痛診療 第 5 回

日本老年薬学会学術大会. 東京 2021 年 5 月

- 3) 北原雅樹. 高齢者の慢性痛診療 第 55 回日本ペインクリニック学会. 新潟 2021 年 7 月
- 4) 北原雅樹. 超高齢社会における腰痛診療ー痛みに対する薬物療法ー 第 29 回日本腰痛学会. 東京 2021 年 10 月
- 5) 北原雅樹. 集学的痛みセンターと医科歯科連携における役割 第 34 回日本顎関節学会 学術大会. 東京 2021 年 11 月
- 6) 北原雅樹. 集学的治療の現状と課題ーシステム作りと運営・経営ー 第 14 回日本運動器疼痛学会. 名古屋 2021 年 12 月
- 7) 北原雅樹. 注射後遷延痛への対処についてー疼痛専門医の立場からー 第 25 回日本ワクチン学会学術集会. 2021 年 12 月

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし